鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○　日　時　令和６年11月15日（金）12:40～14:00

○　分科会Ⅰ　小学校　第４分科会

「学力向上」

○　研究主題

「これからの社会を豊かに生きるための確かな学力の育成」

○　協議題

「確かな学力の育成を図る具体的方策の推進」

○　発表者　霧島市立小浜小学校　白田　実

○　司会者　霧島市立溝辺小学校　林　賢介

○　記録者　霧島市立小野小学校　髙見　憲次

【質疑応答】

（質問：持留小　松嵜　光雄）

・　複式学級における単学年授業，交換事業について，実施している学年，教科の担当者の決まりがあるか。

・　学力向上に向けて，管理職はどのように関わり，体制づくりをしているか。

・　取組を進める中で困ったことはないか。

（応答：小浜小　白田　実）

・　１・２年が単式学級，特別支援学級が２クラスあることから，交換授業については１・２年を中心に音楽や体育で行い，複式解消については，低学年担当の職員が高学年の書写に入ったり，特別支援学級の職員が自分の学級の児童の交流のタイミングで入ったりしている。

・　過去には教頭が授業に入ることもあったが，現在は業務や研修の柔軟性を確保するために基本的には入らない体制で行っている。

・　学力向上には職員の心理的・物理的な余裕が必要であり，業務改善が進まない中で楽しく学力を向上させていくということは難しい。児童の伸びている姿を職員に積極的に伝えながら，「楽しいよね。」と言葉に出すことで心にゆとりがもてるよう努めている。また，教頭の業務改善が非常に大事だと考えることから，教頭がゆとりをもち職員へのフォローができるようにしている。

（質問：国分南小　上唐湊　司）

・　職員が児童の発見や思考，学び合いの瞬間に気付き，それを積み重ねることで児童の主体的な学びの姿勢を育てている。職員と児童の双方にとって重要な学びのプロセスとなっているが，どのような変容があり，深い学びにつながったのか。

（応答：小浜小　白田　実）

・　「楽しい」をキーワードとして経営方針を統一している。授業や行事を通して「楽しかったね。」という具体的な言葉を共有し，児童や職員の共感を促している。その結果，児童が主体的に学びに関わり，分からないことを質問したり，意見を積極的に伝えたりする雰囲気が生まれている。

・　「楽しい学び」は，単に娯楽ではなく，学びそのものへの興味・関心を高めるものであり，授業の理解度や成績向上につながっている。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（M班：富隈小　尾ノ上　義直）

・　ICT 活用の推進として世代間の意識差が課題だったが，使いやすさを徐々に実感してもらいながら職員の意識改革を進めた。使えなかった職員が使えるようになり，学校全体で ICT を活用する環境が広がっている。

・　職員と児童の「笑顔」を学校経営の基軸に据え，笑顔を中心とした活動や評価を重視している。グランドデザインや目標が多岐にわたる中で，「笑顔で一日を過ごす」ことを呼びかけ，具体的なエピソードを交えて意識を共有した。これらの取組が学力向上や児童の自己肯定感の向上に寄与している。

（E班：高尾野小　永山　達治）

・　授業改善や職員の学びを進めるには，校内外の研修によって資質を高め，教育の考え方を変える必要がある。

・　狭い学力観にとらわれず，大学や多方面の専門家を招いた研修を通じて，広い意味での学力観を共有することが重要である。

・　学校には意欲的で熱量のある職員が存在することから，そうした職員を中心に取組を広げる手法が必要である。

・　「学習者主体の授業づくり」という言葉だけが先行しないよう，具体的で本質的な授業改善を目指すべきである。

鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○　日　時　令和６年11月15日（金）14:15～15:35

○　分科会Ⅱ　小学校　第４分科会

「学力向上」

○　研究主題

「これからの社会を豊かに生きるための確かな学力の育成」

○　協議題

「教科等横断的な探求的学習の推進」

○　発表者　南九州市立宮脇小学校　上床　研三

○　司会者　南九州市立青戸小学校　濵元　弘

○　記録者　南九州市立粟ヶ窪小学校　吉満　昭代

【質疑応答】

（質問：持留小　松嵜　光雄先生）

・　教科横断的な探究的学習「どうする宮脇」の取組は地域貢献にもつながる取組でよいと思った。誰がどのように提案し，どのように進めてきたのか。

（応答：宮脇小　上床　研三先生）

・　宮脇小校区は，地域と学校が連携・協働して，地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え，地域を創生する「地域学校協働活動」に南九州市のモデル校として取り組んでいる。学校・家庭・地域の連携が図られ，活気ある校区であり，地区公民館長との関係性も保たれている。そこで，他県の実践をもとに校長が６年担任に提案した。社会科や国語科の教科間のつながりを考え，担任が総合的な学習の時間「ひかりタイム」のカリキュラムを考えてくれた。

（質問：小浜小　白田　実先生）

・　子供たちのアクションで自治会が変わったことがあるか。

（応答：宮脇小　上床　研三先生）

・　学校に１０万円の寄付をしていただいた。学校にとっては大変ありがたいことだった。

（質問：陵南小　深川　光久先生）

・　表現力の向上について，変容を聞きたい。

（応答：宮脇小　上床　研三先生）

・　表現力については，楽しい授業，自分の意見が言える，聞いてくれる等，心理的安定性を担保することを継続したい。道徳科でＰ４Ｃの取組もしている。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（Ｃ班）

・　自由進度学習については，単元の一部だけからでもやってみる。書写で行った学校もある。

・　探究学習で防災教育を行った。主体性のもとになる切実感があり，それに家庭を巻き込み，自分の命を守るにはどうしたらよいか考える取組になった。

・　キッザニア学校版のようにたくさんの業者を学校に呼び，こんな仕事があって自分たちの生活を守ってくれている等の気づきや５年生になったらあの学習ができるという喜びにつながる取組があった。

（Ａ班）

・　自由進度学習とは，学び進めるための手段の一つ。単元，教科の絞り込みをする必要がある。

・　教師側は準備がすごく大変，評価もすごく大変。子供たちはどうなのか。きっと楽しみ，喜びにしていると思う。ゴールを見据えて，子供が選択できるように組み立てること。おもしろいと思う先生から実践していく。多くの準備が必要なので準備ができるような業務改善をしていくことが必要である。

【指導助言】

県教育庁義務教育課義務教育係指導主事

山﨑　晃

〈２つの実践発表について〉

・　１校目は，子供たちが「楽しい」と「授業が分かる」というところを突き詰め，指導案の作り方等を工夫し，具体的な子供の姿をイメージし取り組んだ結果，学力向上につながったという発表をされた。

・　２校目は，学力のとらえを校内研修で位置づけるところから始め，教師のファシリテーター的役割や適切と思われる単元での自由進度学習，一本の矢ではない学力向上を目指した取組を発表された。

〈国の動向等〉

・　自己決定権，意思表明ができる等の子供の育成

・　国の振興基本計画に多く使われているワード
　創造，発見，解決，参画，ウェルビーイング等

・　学習者主体の授業　学びの羅針盤12ページ

・　今後の教育課程，学習指導及び学習評価等のあり方に関する有識者検討会論点整理（R6.9.18）

・　学習者主体の授業の具体　伊敷中

（記録　粟ヶ窪小　吉満　昭代）